



RYUKOKU  
UNIVERSITY

You, Unlimited

## 第5回オンライン高校生 文学模擬裁判選手権 参加校募集

芥川龍之介『羅生門』を題材に  
立証・弁護活動を体験しませんか？

「国語とは言葉を通して人間を考える教科」であるという理念から開発されたユニークな文学模擬裁判。法的思考力や刑事裁判の意義の理解にとどまらず、人間や社会を考える眼差しについて深めることをねらいとした法教育イベントです。

この冬の文学模擬裁判選手権では、芥川龍之介『羅生門』を題材に独自に作成した教材をもとに、参加校の高校生らが検察側・弁護側どちらかの立場の役になりきり、立証・弁護活動を展開します。ぜひご参加ください。

### 実施概要

日時：2025年2月2日（日）9:30-17:00

会場：札埜研究室および各自宅、学校（ZOOM）

主催：龍谷大学札埜研究室

オンライン高校生文学模擬裁判交流大会実行委員会

後援：龍谷大学国際社会文化研究所（札埜プロジェクト）、一般社団法人刑事司法未来、龍谷大学法情報研究会、京都教育大学附属高等学校模擬裁判同窓会、刑事弁護オアシス、株式会社TKC

**募集概要** ※詳細は裏面をご覧ください。

出場校：募集中

費用：参加費は無料

申込締切：2024年10月31日（木）予定

問い合わせ・申し込み先

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1

龍谷大学大宮キャンパス西糺129号室

札埜研究室 宛

TEL 075-343-3326（研究室直通）

E-mail [fudafuda@let.ryukoku.ac.jp](mailto:fudafuda@let.ryukoku.ac.jp)

Ryukoku University

Call for Participation

# 第5回オンライン高校生文学模擬裁判選手権

## 実施概要

### 1 本大会のねらい

- ① 18歳からの裁判員を見据えつつ、勝敗だけでなく、教材の持つテーマについて参加者が対話して市民性を養い、問題意識を深める場とする。
- ② 人間や社会への眼差しを深める文学模擬裁判を味わう機会を提供する。
- ③ 文学模擬裁判に取り組む高校生の交流を図る。

2 日時場所 2025年2月2日（日）9:30-17:00（予定） 法廷：札幌研究室および各自宅、学校（ZOOM）

3 出場校 募集中

### 4 競技方法

- ・ 参加校は、予め配布される文学教材や関連資料をもとに、検察側・弁護側それぞれの立場に立って立証・弁護活動を行う。シナリオ創作型の模擬裁判である。
- ・ 参加校は決められた時間に従い、立証・弁護活動を行い、審査員がそれらの内容を評価して、その総合点で勝敗を決める。参加校は検察側・弁護側両方の立場で模擬裁判を行うことになる（午前中の試合で検察側を担当したチームは、午後弁護側を担当する。逆に、午前中の試合で弁護側を担当したチームは、午後検察側を担当する）。総合点の高い順から優勝校・準優勝校・第3位を決め、法廷ごとにMVPを選出する（予定）。
- ・ 今回の文学作品は芥川龍之介『羅生門』である。関連する法律の条文は刑法第37条、236条になる。

5 採点基準 読解力、人間や社会への洞察力、論理性、表現力等の視点から採点する。

### 6 各チーム人員

- ・ 1試合に必要な生徒数は、検察側・弁護側いずれの立場でも最低4名である（被告人役、証人役は生徒が行う。検察官役、弁護人役の生徒は証人役あるいは被告人役を兼ねることはできない）。**ただし4名に満たない場合でも認めることがある。**
- ・ 当日参加する選手の人数は検察側・弁護側それぞれ7名以内、計14名までとする。

7 費用 参加費は無料。

### 8 準備活動について

- ・ 参加校確定後、教材及び具体的なルールや実施方法を記載した書面を参加各校に送付し、争点についての立証・弁護方針を定め、証人尋問、論告・弁論等の準備をする。模擬裁判初心者でも、模擬裁判を行うにあたり必要事項を学ぶ機会を設ける。
- ・ 11月より大会前まで週末を中心に必要な講義授業をZOOMで配信する（10回程度を予定）。できる限り参加することを求めるが強制はしない。各講義について参加できなかった生徒・高校については、各講義を録画したものを配信、データアップロードなどの対応で補填できるようにする。また模擬裁判に初めて参加するにあたって準備するためのサポート体制（諸国漫遊制度：オンラインでその学校の都合に合わせて指導に赴く仕組み）を敷く。
- ・ 参加校は2025年1月26日（日）までに出場選手名（検察側・弁護側チームメンバー名および役割）を主催者まで連絡する（別途用紙配信）。

10 参加条件 次の条件を満たすこと。

- ① 原則として学校長の許可を得ること（ただし学校単位ではなく、個人で参加を希望する場合は別途相談の上、参加を認めることがある）。
- ② 趣旨（ねらい・研究の一環であること）に賛同できること。
- ③ ZOOMを利用できる環境を準備できること。
- ④ 保護者の同意を得ていること。

### 当日のスケジュール（予定）

- ・ 9時40分 ZOOM入室開始（各自宅等でスタンバイ）
- ・ 9時40分 開会式、出場校紹介、選手宣誓
- ・ 10時 対戦校及び立場（検察側・弁護側）の発表、各法廷ZOOMへ移動
- ・ 10時30分 第1試合開始
- ・ 12時20分 第1試合終了
- ・ 12時20分 昼休憩
- ・ 13時20分 第2試合開始
- ・ 15時10分 第2試合終了
- ・ 16時頃 講評
- ・ 16時30分 成績発表、表彰式
- ・ 17時 大会終了、振り返り交流会

### その他

- ・ 免責事項について、準備授業や当日の試合のレコーディングを行うが、その使用については研究および教育活動以外には使用しない（肖像権について差支えある場合は事前に連絡のこと。可能な限りの対応を考える）。教員に引率の義務は発生しない。また3名に満たない場合で参加を希望する場合は、連合チームでの出場の途を検討するので相談されたい。
- ・ 今大会は龍谷大学国際社会文化研究所の採択研究テーマ「『国際共修型』文学模擬裁判メソッドの開発ー市民性を醸成する対話教育を目指してー」の一環として実施する。

# 第5回オンライン高校生文学模擬裁判選手権

## 実施にあたってのQ & A

Q：週末を中心に模擬裁判を行うのに必要な授業をZOOMで配信するというのですが、具体的にはどのような内容ですか。

- ・ A：今回の趣旨は単なる「模擬裁判」ではなく「文学模擬裁判」となっています。もちろん、法律的な学習や思考についての授業も配信しますが、それだけにとどまらず、国語科の観点も踏まえて、法の主体である「人間」や、「社会」を広く深く考える授業も配信します。たとえば法曹界のかたの授業だけでなく、冤罪被害者、演技表現指導の専門家、研究者のかたの授業など広く人間や社会を考える授業を配信します。法律的な面や論理的思考に重点を置いた模擬裁判とは違うところです。

Q：参加の締め切りはいつでしょうか。

- ・ A：10月末を目途にしています。講義配信の時期もありますが、10～14校に到達した場合にはその時点で締め切りますので、それ以前に締め切る可能性もあります。いずれにせよ参加を考えられる場合は早めの応募をお願い致します。

Q：配信される日時はいつでしょうか。この授業に都合で参加できない場合はどうなりますか。

- ・ A：講義の配信は、高校生の皆さんが視聴しやすい土日祝を中心に考えています。自宅でZOOMを視聴できる環境が必要です。参加できない場合は後日録画動画を配信します。ただ、この講義は、実際にZOOMを通じて講師と皆さんが双方向でやりとりすることが予定されています。皆さんの質疑を大事にしながらか講師の方々と皆さんと一緒に創り上げる講義授業にしたいと思っています。今回の大会準備の「肝」にあたりますので、主催者としては、講義当日の皆さんの参加を期待しています。ぜひライブでご参加下さい。

Q：日本弁護士連合会主催の模擬裁判選手権との違いは何ですか。

- ・ A：主な違いについては次表をご覧ください。

項目	日弁連主催の選手権	本選手権
教材	実際にあった事件や類似事件から作成される。	文学作品をモチーフとして作成される。
目的	法的思考力や刑事手続きなどを学ぶ。	あくまでも法や法的思考力を手段として、人間とは何か、どんな社会を創っていくかを考える。
設定	教材に裏設定がある。真相がある。	教材に裏設定がない。真相はわからない。教材作成者にもわからない。読み手に委ねられる。
指導方法	支援弁護士や支援検察官が派遣されて指導にあたり、サポートしてくれる。	事前講義がオンラインで配信され、自分で学んでいく。「諸国漫遊」という「オンライン、場合によっては対面で指導する機会を設ける。基本こちらから手を差し伸べることはない。サポートが必要ならばその都度申し出る。サポートに回数制限はない。自分たちで動く必要性があり、主体性が求められる。
学ぶ範囲	基本的には法律関係が中心	法律はもとより、文学・歴史など教材に関係する森羅万象。
方法	対面（地域によってはオンライン） 地域ごとの優勝校を選ぶ。 証人・被告人は弁護士が演じる。	基本オンライン（交流戦や決定戦の場合、対面の時あり）。 夏と冬の優勝校で日本一決定戦を行うことがある。 証人・被告人はそのチームの生徒が演じる。
ルール	異議を出せない。	異議を出せる。
採点基準	演技力は評価対象に入らない。	演技力は評価対象となる。
形態	弁護士会によるイベント。	教育の機会の提供でもあるが、あくまでも大学の研究の一環。